

## 循環器内科

安村良男

急性心筋梗塞は減少傾向にあり、心不全が増加傾向にあるが、ここ数年間の入院患者のうち虚血性心疾患患者が45%と最も多く、次いで心不全患者の約20%である。

**虚血性心疾患**：内科的治療や再灌流療法の進歩により、心不全や不整脈を合併する症例が増加している。当院は3次救急対応病院であるため、致死的不整脈を合併し、ショック状態で入院する症例が多い。このような症例は40～60才代が多く含まれ社会的にも問題である。近年は救命救急センターの医師が速やかに経皮的心肺補助法(PCPS)を装着し、緊急カテーテル検査・治療までの全身状態を少しでも安定化させ、救命できる症例が増加している。症例の中には高度の心不全管理、不整脈への対応、安定期の植え込み型除細動器(ICD)の装着など、循環器診療の包括的な対応を必要とする。救命救急部と循環器内科のチーム医療で対応している。

**心不全**：慢性心不全はその進行速度こそ個人差が認められるものの経年的には進行性であり、その原因の解明が重要である。特に、原因がはっきりしない心筋疾患に対しては心筋生検や心臓MRIを用いて、極力その原因疾患の解明に努力している。慢性心不全治療はまずその病態の解析や最適な内科的治療を提供することが重要であるが、非薬物療法として両心室同期療法(CRTやCRT-D)、心臓リハビリテーションも実施している。また今後の一つの治療法になるであろう陽圧換気療法に取り組んでいる。また、急性心不全は近年、数多くの薬剤が開発されつつある。当科では急性心不全に対する種々の薬剤の使用経験が豊富なことを活かして、いかに早く、安全に退院していただくかを目指して、多様な急性心不全の病態の解析に取り組んでいる。心疾患全般に、中でも弁膜症や心不全の診断や病態解析に心臓超音波検査は不可欠な検査であるが、当科では心臓超音波専門医が2名在籍し対応している。

**不整脈、心房細動**：高齢化とともに心房細動の治療はますます重要となってきた。近年ワーファリンに代わる経口抗凝固薬が使用されるようになり抗凝固薬の選択や使用法が日々変化、進化している時代といえる。当科では抗凝固薬治療のオピニオンリーダーとして臨床にあたっている。不整脈の治療においては、心房頻拍、心房粗動、WPW症候群などの上室性頻脈や一部の心室性の不整脈に対してカテーテルアブレーションを施行している。心房細動のアブレーションは準備段階である。

**閉塞性動脈硬化症**：平成24年には約30例において経皮的血管形成術(PTA)を施行している。また腎動脈狭窄の症例に対しても、症例を検討して、経皮的腎動脈経成術(PTRA)を施行している。

**心臓リハビリテーション**：当院においても平成25年11月より心臓リハビリテーションを開始した。急性心筋梗塞、狭心症、心臓血管外科の手術後、閉塞性動脈硬化症のみならず、心不全にも積極的に取り入れている。心臓リハビリテーションは運動療法を中心

としているが、個々の循環器疾患を包括的にとらえるチーム医療である。  
日本循環器病学会のガイドラインでの高齢者慢性心不全の治療に結論されているとおり、「慢性心不全は集学的・集約的医療の代表疾患である。特に、高齢者では多くの疾患を抱えるため、包括的疾患管理を必要とする。治療法は多岐にわたり、診療スタッフも多業種に及び、その判断や理解、指導は多様で、求められるアウトカムもまた患者ごとに異なる。このような高齢慢性心不全の特性に合わせ、最も妥当な診療法の選択を行うための、また選択された診療を実施するためのシステムの構築こそが疾病管理を担う医療スタッフに課せられた任務である。さらに、その合意に基づく選択は、患者・家族・社会負担、それに医療スタッフ負担、次世代負担の少ない方策でなければならない。」

#### 【2014 年度研究発表業績】

A-0

Momomura S, Seino Y, Kihara Y, Adachi H, Yasumura Y, Yokoyama H : Adaptive servo-ventilation therapy using an innovative ventilator for patients with chronic heart failure: a real-world, multicenter, retrospective, observational study (SAVIOR-R)

Heart Vessels Date: 08 Aug 2014 online

Shinouchi K, Abe H, Hirooka K, Yasumura Y, Koretsune K : A sarcoid nodule mimicking a thrombus and obstructing intravenous cardiac resynchronization device implantation.

Eur Heart J- Cardiovascular Imaging 2014;doi: 10.1093/ehjci/jeu197

Sasaki N, Kunisawa S, Ikai H, Fushimi K, Yasumura Y, Kimura T, Imamura Y : The relationship between the number of cardiologists and clinical practice patterns in acute heart failure: a cross sectional observational study.BMJ Open 2014;4:e005988 doi:10.1136/bmjopen-2014005988

Momomura S, Seino, Y, Kihara, Y, Adachi H, Yasumura, Y, Yokoyama H Wada H, Ise T, Tanaka K. : Adaptive Servo-Ventilation Therapy for Patients with Chronic Heart Failure in a Confirmatory, Multicenter, Randomized, Controlled Study Circ J 2015 in press\_

Shinouchi K, Abe H, Hirooka K, Yasumura Y, Koretsune Y. A Sarcoid nodule mimicking a thrombus and obstructing intravenous cardiac resynchronization device implantation. Eur Heart J Cardiovasc Imaging 2014 Nov 16. Epub ahead of print.

A-2

安村良男：ここが知りたい 利尿薬の選び方、使い方 編著 北風正史

中外医学社 2014 10 月 1 日 急性心不全における利尿薬の使いかた p139-p158

A-4

安村良男：静注型・貼付型β遮断薬 循環器内科 2014;76:131-133 2014.08.28 発行

安村良男：最新の急性心不全治療 急性期から慢性期への移行を踏まえて 企画編集  
臨床循環器 CIRCULATION 医学出版 平成 26 年 5 月 25 日発行

安村良男：循環器科医 必携 日常臨床の疑問解決します  
心不全における cardiac failure と vascular failure の病態の見極め方と治療法を教えてください。  
Heart View 2014;18(増刊号):160-165 平成 26 年 11 月 1 日発行

安村良男:COPD 患者での  $\beta$  遮断薬の使用 循環器内科 2013;74:93-97 2013/07/28 発行

安村良男：心不全を合併する高血圧に対する治療 ライフサイエンス社  
MEDICAMENT NEWS 2013;2135:12-14

安村良男：トルバプタンの水の引き方：臓器うっ血の観点から 医薬ジャーナル  
50:128-132, 2014

安村良男：カルペリチドの使い方について教えてください レジデントノート 15-  
16;2956-2958,2014

安村良男：急性心不全と心拍数調節 Cardiac Practice 25;37-40, 2014/02/06

安村良男：慢性心不全の診断と治療方針と具体的なすすめ方 Medical Practice  
2014;31:354-360

B-2

1 Sakaguchi D, Yasumura K, Nishida H, Inoue H, Furukawa T, Sinouti K, Miura H, Miyazaki K, Koide M, Abe H, Hirooka K, Koretsune Y, Kusuoka H, Yasumura Y. Novel method to quantify the degree of fluid accumulation and its prognostic implication in patients with acute decompensated heart failure. American Heart Association Scientific Sessions 2014, Chicago, USA (2014 年 11 月)

Furukawa T, Abe H, Hirooka K, Inoue H, Nishida H, Yasumura K, Sakaguchi T, Shinouchi K, Miura H, Miyazaki K, Hamano G, Koide M, Yasumura Y, Koretsune Y, Kusuoka H. Higher reproducibility of tissue tracking method than conventional M-mode for the measurement of tricuspid and mitral annular plane systolic excursion. American Society of Echocardiography 25<sup>th</sup> Annual Scientific Sessions, Portland, USA (2014 年 6 月)

Abe H, Masuda K, Asanuma T, Koriyama H, Koretsune Y, Kusuoka H, Nakatani S. Quantitative

Characteristics of Left Ventricular Vortex Flow in the Short and Long Axis Views by High Frame Rate Echocardiographic Particle Image Velocimetry. American Heart Association Scientific Sessions 2014, Chicago, USA (2014年11月)

### B-3

安村良男 第2回日本肺高血圧学会、第3回日本肺循環学会 合同学術集会 (東京) 2014 10.5 シンポジウム 6 右心機能を考え直す Clinical significance of diastolic ventricular interaction in pulmonary hypertension

### B-4

古川哲生、安部晴彦、井上裕之、西田博毅、安村かおり、坂口大起、篠内和也、三浦弘之、宮崎宏一、濱野剛、小出雅雄、安村良男、是恒之宏、楠岡英雄 カラー組織ドプラ法による右室機能評価の有用性 第25回日本心エコー図学会、金沢 (2014年4月)

安村かおり、古川哲生、安部晴彦、廣岡慶治、井上裕之、西田博毅、坂口大起、篠内和也、三浦弘之、宮崎宏一、小出雅雄、安村良男、是恒之宏、楠岡英雄 右室機能評価において組織トラッキング法はMモードに比して高い再現性を有する 第26回日本心エコー図学会学術集会、小倉 (2015年3月)

井上裕之、安部晴彦、西田博毅、安村かおり、古川哲生、篠内和也、坂口大起、三浦弘之、安部晴彦、濱野剛、宮崎宏一、小出雅雄、廣岡慶治、安村良男、是恒之宏、楠岡英雄 当院で経験した急性肺動脈血栓塞栓症を発症したHIV感染症患者の臨床的特徴に関する検討 第62回日本心臓病学会学術集会、仙台 (2014年9月)

篠内和也、坂口大起、井上裕之、西田博毅、安村かおり、古川哲生、三浦弘之、宮崎宏一、小出雅雄、安部晴彦、廣岡慶治、安村良男、是恒之宏、楠岡英雄 トルバプタンによるDecongestion様式の予測因子の検討 第62回日本心臓病学会学術集会、仙台 (2014年9月)

小出雅雄、井上裕之、西田博毅、安村かおり、古川哲生、篠内和也、坂口大起、三浦弘之、宮崎宏一、安部晴彦、廣岡慶治、是恒之宏、楠岡英雄、安村良男 Carperitide減量・中止にて血行動態の悪化をきたす症例の検討 第62回日本心臓病学会学術集会、仙台 (2014年9月)

坂口大起、安村かおり、西田博毅、井上裕之、古川哲生、篠内和也、三浦弘之、宮崎宏一、小出雅雄、安部晴彦、廣岡慶治、是恒之宏、楠岡英雄、安村良男 トルバプタンによるdecongestionの経過と神経体液性因子との関係 第62回日本心臓病学会学術集会、仙台 (2014年9月)

### B-6

篠内和也、井上裕之、西田博毅、安村かおり、古川哲生、坂口大起、三浦弘之、宮崎宏一、濱野剛、小出雅雄、安部晴彦、廣岡慶治、安村良男、是恒之宏、楠岡英雄 ステロイドが有効であった難治性冠攣縮性狭心症の一例 第117回日本循環器学会近畿地方会、大阪 (2014年7月)

宮崎宏一、井上裕之、西田博毅、安村かおり、古川哲生、坂口大起、篠内和也、三浦弘之、濱野剛、小出雅雄、安部晴彦、廣岡慶治、安村良男、是恒之宏、楠岡英雄 エプレレノンにより著明に左室機能が改善した大動脈弁閉鎖不全症の2例 第117回日本循環器学会近畿地方会、大阪 (2014年7月)

西田博毅、井上裕之、安村かおり、古川哲生、坂口大起、篠内和也、三浦弘之、宮崎宏

濱野剛、小出雅雄、安部晴彦、廣岡慶治、安村良男、是恒之宏、楠岡英雄 ステロイド単独でコントロールし得た巨細胞性心筋炎の一例第 117 回日本循環器学会近畿地方会、大阪 (2014 年 7 月)

宮崎宏一、井上裕之、西田博毅、安村かおり、古川哲生、坂口大起、篠内和也、三浦弘之、小出雅雄、安部晴彦、廣岡慶治、是恒之宏、楠岡英雄、安村良男 胸腔内に腎臓が・・・？「普段あまり気に留めない心エコー像」第 62 回日本心臓病学会学術集会、仙台 (2014 年 9 月)

安村かおり、廣岡慶治、西田博毅、井上裕之、古川哲生、坂口大起、篠内和也、三浦弘之、宮崎宏一、小出雅雄、安部晴彦、安村良男、是恒之宏、楠岡英雄 MRI 対応スクリーニン・リードを心房中隔に留置することは用ではない 第 62 回日本心臓病学会学術集会、仙台 (2014 年 9 月)

安村かおり、安部晴彦、廣岡慶治、古川哲生、三浦弘之、宮崎宏一、小出雅雄、安村良男、是恒之宏、楠岡英雄 急性冠症候群の疑いで入院しその後人工弁感染性心内膜炎で外科治療を要した一例 日本超音波医学会第 41 回関西地方会学術集会、京都 (2014 年 11 月)

井上裕之、安部晴彦、西田博毅、安村かおり、古川哲生、篠内和也、坂口大起、三浦弘之、安部晴彦、濱野剛、宮崎宏一、小出雅雄、廣岡慶治、安村良男、是恒之宏、楠岡英雄 急性肺水腫を契機に診断に至った褐色細胞腫の一例 第 118 回日本循環器学会近畿地方会、大阪 (2014 年 11 月)